

「施策」総括票

| | | | |
|--------------|--|-------------|------|
| 施策展開 | 3-(12)-ア | 観光リゾート産業の振興 | |
| 施策 | ①島々の個性や魅力を生かした着地型観光プログラム等の開発 | | 302頁 |
| 対応する 主な課題 | <p>○沖縄県の39の有人離島は、本島・本土からの交通アクセスや高い移動コストなどの課題を抱えており、一部の離島を除いて県外での知名度が低い。このため、個性豊かな伝統文化や自然環境等の魅力を生かした観光を推進し、滞在日数の増大や観光客一人当たりの消費額の増加を図ることが重要である。</p> <p>○離島観光の国際化や多様化する観光ニーズに対応するためには、離島の魅力ある資源を生かした観光プログラムの創出、国内外における離島の認知度向上、新たな旅行市場の開拓等の課題に適切に対応する必要がある。</p> | | |
| 関係部等 | 文化観光スポーツ部、土木建築部 | | |

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

| 平成24年度 | | | |
|--------------------------|------------------|--------|------|
| | 主な取組 | 決算見込額 | 推進状況 |
| ○着地型観光プログラム等の開発支援 | | | |
| 1 | 地域観光資源創出支援事業 | 34,620 | 順調 |
| 2 | 地域観光の支援 | 5,290 | やや遅れ |
| 3 | ディスカバー沖縄しま観光振興事業 | 42,007 | 大幅遅れ |

○市町村、観光協会、NPOといった地域が取り組む新たな観光資源の創出及びこれらを活用した観光メニュー造成事業を公募し、経費補助、アドバイザー派遣の支援を実施した。(1)

○離島観光振興会議を、宮古圏域で2回、八重山圏域で2回、久米島町で1回開催した。また市町村との意見交換会を、3地域(参画市町村数:7市町村)で開催した。観光まちづくりアドバイザーは2市で実施した。市町村意見交換会や観光まちづくりアドバイザーにおいて、希望する市町村が見込みより少なかったことによりやや遅れとなっている。(2)

○県内外へ離島観光のPRを行うとともに、専用サイトの情報を活用した観光メニューの造成に取り組んだ。観光メニュー造成(計画値12件、実績値2件)については、関係機関との連絡調整に遅れが生じたことなどから、大幅遅れなった(3)

様式2(施策)

| | | | | |
|---|------------|--------|----|--|
| 4 | 着地型観光推進事業 | 9,743 | 順調 | ○OCVBの観光情報サイト内に着地型旅行商品の特集コンテンツページを制作・掲載。着地型観光講演会やセミナー等実施。(4) |
| 5 | 宮古広域公園整備事業 | 17,514 | 順調 | ○宮古圏域における観光の周遊性を高める機能、観光拠点の可能性、地域特性の活用方法など、地元アンケート調査、関係機関へのヒアリングなどの基礎調査を実施。(5) |

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

| | | 成果指標名 | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 沖縄の現状 |
|---|------|-------|-----|-----|--------|-----|-------|
| 1 | | — | — | — | — | — | — |
| | 状況説明 | — | | | | | |

(2) 参考データ

| 参考データ名 | 沖縄県の現状 | | | 傾向 | 沖縄の現状 |
|-------------------------|-----------------|------------|---|----|-------|
| 地域資源を活用した新たな観光メニューの開発件数 | 5件 (24年度) | — | — | — | — |
| 観光振興計画等を策定した市町村数 | 19市町村 (23年度) | — (調査中) | — | — | — |

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○着地型観光プログラム等の開発支援

- ・地域の特色を生かした地域観光資源を創出・活用し、沖縄県内の観光メニューの充実を図るため、より効果的な地域資源の活用方法、モニターツアーの情報発信の方法の検討等、観光メニューの開発に向けた事業の実施が必要である。
- ・ディスカバー沖縄しま観光振興事業において作成した専用サイトは、通常の観光情報サイトとは異なり動画を投稿する形式であることから、視聴者にとってより離島の魅力を近くに感じる事の出来る内容となっているため、サイトの内容については情報量を一定以上に保ち、内容を更新していく必要がある。
- ・ディスカバー沖縄しま観光振興事業における商品(観光メニュー)造成については、旅行会社等の関係機関との連絡調整に時間を要した結果、商品造成に至らなかったものや商品造成しながらも集客が思うようにいかずツアーが実施されなかったケースが見られた。
- ・着地型観光は地域によって取組状況に差があり、各市町村によって濃淡があるため、とりまとめに時間を要する。
- ・宮古広域公園整備については、地元の意見を汲み入れることや既存の公園の状況を考慮するため宮古島市との連携を図る必要がある。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○着地型観光プログラム等の開発支援

- ・地域観光の支援については、沖縄県の観光が今後とも持続的に発展していくため、地域が主体となって独自の自然・文化・歴史など、多様性に富んだ観光資源を活用し、魅力ある観光地づくりの取組を推進することが必要である。県は、各地域における優位性のある観光資源を活用した観光地づくりの取組を促進・支援することで、沖縄県全体としての魅力の向上を図る必要がある。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

○着地型観光プログラム等の開発支援

- ・モニターツアー助成やアドバイザー派遣等着地型観光メニュー開発への支援を行うとともに、着地型観光メニュー開発を担う人材育成や地域の組織強化を図るため、セミナー等を開催する。
- ・沖縄県全体としての魅力の向上を図るため、離島観光振興会議及び市町村との意見交換会の開催の他、全市町村を対象としたヒアリングを行い、県と市町村との連携強化、円滑な情報交換等により、地域観光の支援を図る。
- ・ディスカバー沖縄しま観光振興事業においては、利用者にとって身近に離島を感じられるサイトとするため、専用サイトに掲載する離島観光情報や動画等を定期的かつ多く掲載するなど中身を充実させ情報発信を行うとともに、その他のプロモーションについても、他の離島事業との連携を図ることで最も効果的かつ効率的なプロモーションを実施していく。
- ・ディスカバー沖縄しま観光振興事業においては、旅行会社等の関係機関との連絡調整を迅速に行い、商品造成に至らないものが生じないよう慎重に調整を行う。また、商品造成しながらも集客が思うようにいかずツアーが実施されなかったケースについては、原因を明らかにするとともに次回の商品造成にノウハウを活かす等の取り組みを行うことにより解消を図る。
- ・着地型観光推進事業は平成24年度で終了となるが、当該事業により明らかになった受入体制の課題や得られた実績等については検証を行うことにより、他の関連事業に活かしていく。
- ・宮古広域公園整備について、県と宮古島市との役割分担を明確にし、検討委員会等を通じて情報共有及び意見交換を重ねるなど、宮古島市との連携を強化することにより、推進する。